

東芝テック株式会社 静岡事業所(三島) サイトレポート情報

所在地 : 静岡県三島市南町6-78

敷地面積 : 49,646m<sup>2</sup>、建家面積 : 57,627m<sup>2</sup>、緑化率15.65%\*規制対象外

設立 : 1963年1月、従業員 : 897名 (2011年3月現在)

主要製品 : 通信機器(MFP/複合機)、トナー、インクジェットヘッド

ISO14001 認証取得 : 1997年3月、最新更新年月 : 2009年3月  
2010年12月 4MS 統合定期審査 (ISO 認証番号 : JQA-E-80030)



ごあいさつ

2010年4月より、三島、三福、大仁の3拠点を統合し、東芝テック(株)静岡事業所として再編成されました。その中で、当サイトは、「水と緑と人が輝く夢あるまち・三島」に立地しており、この環境を健全な状態で次世代に引継ぎ、「かけがえのない地球環境」を守ることが基本的責務であるとの認識にたつて、東芝テックグループの経営理念及び行動基準に基づき行動しています。また、当事業所は、画像情報通信機器とインクヘッドの開発・設計、製造、サービスなどの事業活動を行っており、これらによる環境に対する影響を低減するため環境保全活動を推進しています。



環境保全責任者 榎田信一

2010年度の環境の主な取組み

☆ISO14001環境マネジメントシステム

1997年3月に認証取得。2010年12月、4つのIMS 監査として受審し定期審査完了。

☆環境保全体制の充実

法令、条例の遵守。現場管理の強化

☆環境調和型製品の開発

環境調和型製品売上高比率91.7%

☆CO2排出量の削減

CO2(エネルギー)の生産高原単位を1990年度と比べ、274%達成(目標 303%以下)

☆廃棄物ゼロエミッションの継続

廃棄物排出量の生産高原単位を2000年度と比べ、45%達成(目標 58%以下)。最終処分率は、0.08%

☆化学物質排出量の削減

化学物質の排出量を2000年度と比べ、33.4%達成(目標 40%以下)

☆全員参加・啓発活動の展開

環境月間・3R推進月間・省エネ月間時の環境啓発活動、環境・IMSニュース発行(10年度:8件発行)等

☆地域との協調

各種環境行事参加:川の清掃奉仕活動、三島市の主ルートの清掃、ノーカーデー参加等

製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介



【 MFP/複合機 】



【 トナー 】



【 インクヘッド 】

環境コミュニケーションの紹介

- ・環境報告書の発行 : 2002年度より毎年発行 (サイトレポート)
- ・地域との交流(主催) : 箱根の森のダム作り(間伐材を利用した治水活動)、見晴学園清掃奉仕
- ・自治体等主催行事参画 : 三島市"せせらぎルート"清掃奉仕活動(監視区域における空缶、空ビン、タバコの吸殻、等のゴミ拾い)、三島の川をきれいにする奉仕活動(桜川の清掃)、環境講演会への参加



環境方針

東芝テック(株)静岡事業所(三島)・(三福)、  
テック製造(株)、(株)テックプレジジョン

**IMS基本方針及び行動基準**

**【序文】**

「水と緑と人が輝く夢あるまち・三島」に立地している静岡事業所(三島)を中心として、各組織が一丸となって「かけがえのない地球環境」を守り、次世代に引き継ぐことを責務として、「人を大切にします」「豊かな価値を創造します」「社会に貢献します」という東芝グループの経営理念に基づき、エレクトロニクスを応用した社会に貢献するビジネス機器分野を中心に事業展開して行きます。

私たちは、IMS基本方針と行動基準を守り、お客様・地域の皆様・従業員の満足と企業価値の向上に努めます。

そのために、品質・環境・労働安全衛生・情報セキュリティの統合マネジメントシステムを構築・維持することにより、相乗効果を創出し、バランスの取れた継続的改善に取り組みます。

**【IMS基本方針】**

1. 統合された目標を達成するための統合マネジメントシステムを維持し更に向上する。
2. 目標設定にあたっては、個々の最適化から全体最適化を図り、バランスの取れた目標を設定して、継続的な改善に取り組む。
3. 目標達成に向けて、リソースを効率的に運用すると共に、社会の動向や事業環境の変化に対し柔軟に対応する。
4. 事業を展開する国内外の法規制、お客様との契約、社内外の規程・規範を遵守する。

2011年5月9日

東芝テック株式会社 静岡事業所  
執行役員事業所長

原 康 三 

**東芝テック株式会社 静岡事業所 環境行動基準**

環境経営の重要な柱として、「環境経営マネジメント」、「エコプロダクツの開発」、「エコプロセスの推進」、「環境コミュニケーションの推進」を掲げ、業務分野での環境負荷低減に貢献する。

1. 「環境経営マネジメント」

- ・事業活動、製品、サービスに関わる環境的側面について、生物多様性を含む環境影響を評価し、環境負荷の低減、汚染防止などに関する環境目的・環境目標を設定・推進し、継続的な改善・向上を図り、定期的な見直しを行う。
- ・環境に関する法令・条例及び組織として受入れを決めた要求事項、自主基準を順守する。

2. 「エコプロダクツの開発」

- ・製品・サービスに使用する材料は開発時・調達時に、RoHS、WEEE、REACHを順守した材料を選定・仕入を行い、東芝グループのグリーン調達方針を推進・実行する。
- ・グローバルに環境調和型製品の提供をするため、3R、省エネルギー、特定化学物質全廃設計によりライフサイクルを通じた環境負荷の低減を推進する。

3. 「エコプロセスの推進」

- ・地域性に配慮し、省資源、省エネルギー、化学物質の適正管理に取り組み、環境配慮生産をおこなう。
- ・「モノ創り」や物流・業務の効率化により、低炭素社会の実現を目指す。
- ・環境に配慮した文房具・OA機器などのグリーン購入を推進する。

4. 「環境コミュニケーションの推進」

- ・東芝テックグループの環境保全活動を推進するため、関係・協力会社に対し指導・支援を行う。
- ・社員一人ひとりが環境活動を推進できるように、環境教育・啓蒙活動を展開し、環境マインドを高める。
- ・環境方針、環境活動について広く社内外へ公開する。
- ・行政、地域、関係団体などと協調し、社会全体の環境活動に参画、協力する。

2011年 05月 09日

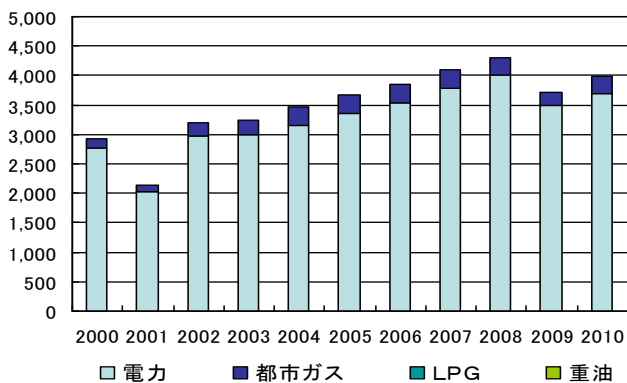
東芝テック株式会社 静岡事業所

執行役員事業所長

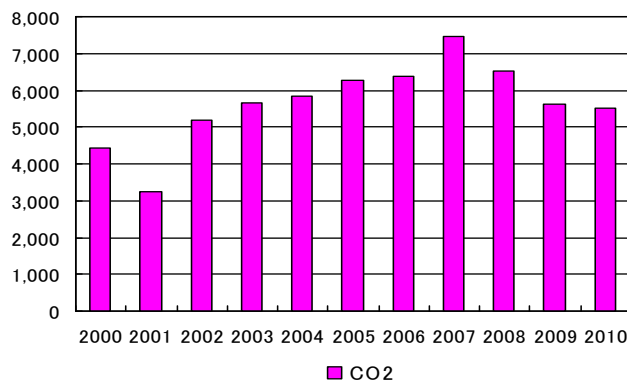
原 康 三 

環境負荷データ

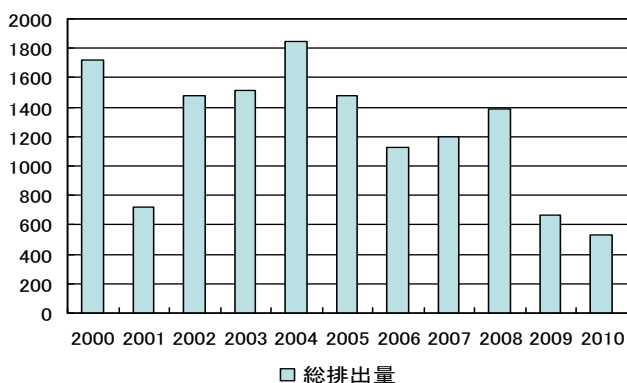
エネルギー使用量(単位:KL)



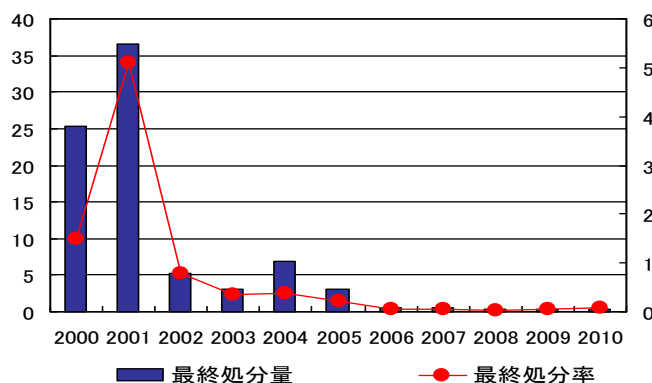
CO<sub>2</sub>排出量(単位:トン-CO<sub>2</sub>)



廃棄物総発生量(単位:トン)

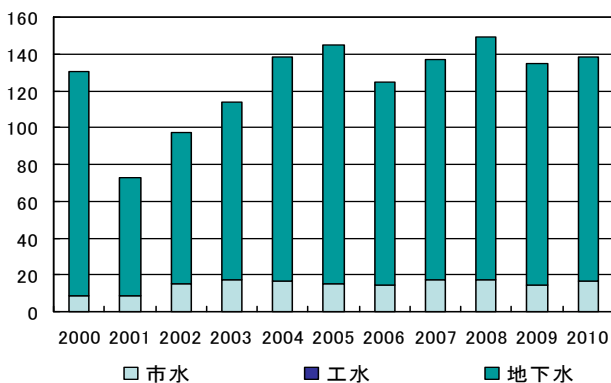


廃棄物最終処分量と最終処分率(単位:トン、%)

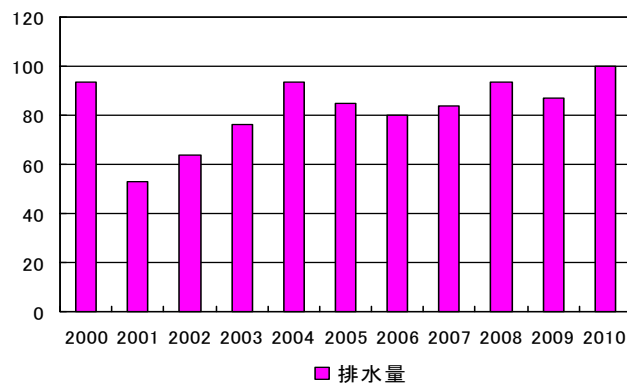


主な廃物名:紙類(評価紙・ダンボール等)、プラスチック、金属、ガラス、木屑、廃油、汚泥等

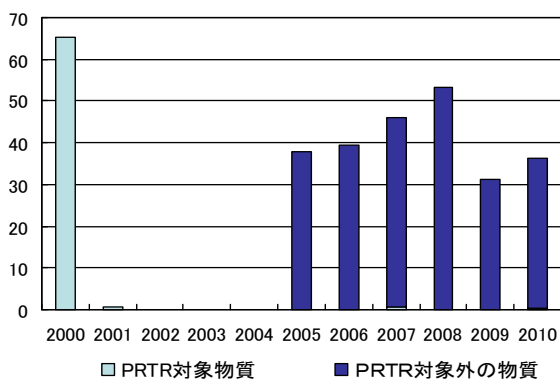
水の使用量(単位:千m<sup>3</sup>)



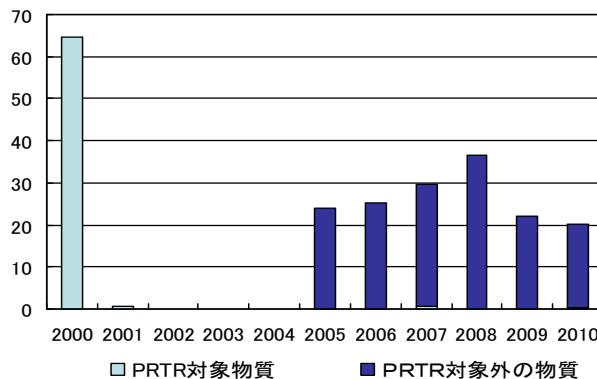
排水量(単位:千m<sup>3</sup>)



化学物質削減対象物質の取扱量推移(トン)



化学物質削減対象物質の排出量推移(トン)



主な化学物質:IPA、エタノール、トルエン、スチレン

## 遵法管理状況

### <大気測定結果> 対象施設なし

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(ppm)	—	—	—	—
SOx(Nm3/h)	—	—	—	—
ばいじん(mg/Nm3)	—	—	—	—

### <排水測定結果> (廃水処理場施設(最終放流口から公共下水道へ放流))

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.7~8.7(三島市協定値)	6.0~8.5	7.3	年2回
BOD(mg/ℓ)	300(三島市協定値)	150	3.3	年2回
COD(mg/ℓ)	対象外	対象外	対象外	対象外
SS(mg/ℓ)	300(三島市協定値)	150	5.5	年2回
窒素(mg/ℓ)	対象外	対象外	対象外	対象外
フッ素(mg/ℓ)	8(水濁法)	3	0.2未満	年2回

### <騒音・振動測定結果> (特定施設(騒音 40施設(送風機、コンプレッサー、空気調和機)、振動 11施設(コンプレッサー)))

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	55dB	55dB	48.2dB	2回
	敷地境界:夜	45dB	45dB	39.9dB	2回
振動(dB)	敷地境界:昼	55dB	55dB	40.2dB	1回
	敷地境界:夜	50dB	50dB	35.4dB	1回

### <その他測定結果> (下水道法:主な測定結果)対象なし

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	—	—	—	—
BOD(mg/ℓ)	—	—	—	—
SS(mg/ℓ)	—	—	—	—

### <環境事故・指導指摘・苦情の有無>

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし

## 環境目標

2011年度のサイトの主な環境目標

推進項目	指標	2011年度目標
地球温暖化の防止	CO2総排出量 1990年度基準	81.8%以下 ※総排出量見込:6061.5t-CO2
	水受入量(使用量) 2000年度基準	119.7%以下 ※使用量見込:155,528m <sup>3</sup>
資源の有効活用	最終処分率	0.09%以下
	廃棄物総発生量 2000年度基準	31.2%以下 ※総発生量見込:535.4t以下
化学物質管理	大気・水域への排出量 2000年度基準	41%以下 ※排出量見込:23.3t

## 環境目的

2012年度のサイトの主な環境目的

推進項目	指標	2012年度目標
地球温暖化の防止	CO2総排出量 1990年度基準	85.8%以下 ※総排出量見込:6,319t-CO2
	水受入量(使用量) 2000年度基準	130.1%以下 ※使用量見込:169,377m <sup>3</sup>
資源の有効活用	最終処分率	0.09%以下
	廃棄物総発生量 2000年度基準	31.5%以下 ※総発生量見込:542.0kg以下
化学物質管理	大気・水域への排出量 2000年度基準	37.0%以下 ※排出量見込:20.90t